

抽象概念語彙を説明するための適切な導入例を考える ー現場教師の授業準備に役立つための試案作成に向けてー

鈴木 智美

東京外国語大学 国際日本学研究院

tmsuzuki@tufs.ac.jp

1. 研究の目的

ある種の抽象的概念を表す日本語表現は、特に日本語非母語話者の的確な理解・使用のためには、品詞や活用形、文の述語となるものについてはその補語などの文法的・統語的情報、意味、コロケーション（慣習的な語句と語句との結びつき）以外にも、それを用いることのできる的確かつ具体的な「状況・場面」を事例として示す必要があるのではないかと思われる。

本研究では、日本語教材等をもとにそのような表現にどのようなものがあるかを拾い出し、各種の辞書記述やコーパス資料などを参考にしつつ、その「的確な使用状況」の導入例について考えてみることを目的とする。日本語のみならず日本社会・文化に興味・関心のある日本語学習者や、日々現場に立つ日本語教師にとって役に立つ共有の資料を整備していくことを目指す。

2. 問題の所在

例えば、中級レベルの日本語学習者が、クラスメートたちが温かい気持ちで誕生日パーティーを開いてくれたことについて、クラスメートたちは「良心的」である」という表現をしたことがあった。これは、単純に「良心的」を「よい心・温かい心を持つ」ことであると誤解したために生じたものとも考えられるが、当該の学習者は学習者なりに「良心的」の意味を考えた上で、あえて使用したものとも考えられた。実はその学習者は、自身の日本語レベルがクラスと適合していないのではないかと感じ、クラス変更の希望を申し出た直後のことであった。クラスを離れようかと考え悩む自分に対し、クラスメートが変わらず温かい心で接してくれたことについて、彼らの心情や態度を表現するための語として、あえてこの語を選んだようにも受け止められた。しかし、結果的に「良心的」という語の使い方としては的確なものとはならなかった。

当該のクラスで、読解の授業において「良心的」という語に触れたのが本稿の執筆者自身であったため、このことから、自身の教え方が不十分であったことを反省させられた。読解文を扱った際に、「良心的」についてもその文脈に沿って説明を行ったつもりであったが、さほどこの語を重要視はせずに、どのような場合に、どのようなことを、どのようにとらえる態度・行動をもって「良心的」と称するのかについては、それを的確に示すような具体的な事例を、ほかに補って提示することはこの時はしていなかった¹。しかし、それでは不十分であったことがわかる²。

3. 的確な事例を示す必要性

抽象的な概念を表す表現で、何らかの具体的な事例を補って示す必要があると思われる表現には、中級レベル以上の授業を行っていく際に実はしばしば出会う。それらの表現は、意味を解説し、他の語句との典型的な結びつき等を示すだけでは実は不十分であり、どのような時にそれが使えるのかについて、具体的な事例をいくつか挙げて示す必要があると思われるものである。

しかし、このような表現は、既存の辞書などを参照しても、必ずしも的確な使用場面が提示されているわけではない。例えば、「良心的」の辞書記述「良心に従って行動するさま。誠実なさま」や、その用例「-な店」(『大辞林』)のみでは、実際にどのような態度・やり方が「良心に従って」おり、「誠実」であると言えるか、また、どのような店であれば「良心的」と言えるのかを理解するには十分ではない。また、事例を求めてコーパスを検索したとしても、前後の言語的な文脈は確認できても、その的確な使用状況・場面までが十分かつ明示的に示されるとは限らない。それぞれは1つの小さな表現であるかもしれないが、現場の教師としては、その都度、説明を補うための的確な使用場面・状況を探し出し、考え出すという作業を重ねることになる。

ほかにも、例えば「合理的」「整合性」「ナンセンス」「理屈に合う」「理屈をこねる」「～に凝る」「うがった(解釈)」などの表現はどうだろうか。例えば、「ナンセンス」の辞書記述「意味のないこと。ばかげたこと」や、用例「そんな議論は-だ」(『明鏡国語辞典 第二版』)だけでは、少なくとも学習者のためには十分ではなく、具体的にどのような「議論」が「ナンセンス」と称されるのかを具体的かつ簡潔に補って示す必要があるだろう³。また「理屈をこねる」という表現なども、具体的に、どのようなことについて、どのようなことを、どのような態度で言う行動をそのように称するのか、また「うがった解釈」とは、例えばどのようなことについて、どのように解釈する場合に使うものなのかなどについて、その表現が用いられている教材の文脈以外にも、的確な事例を簡潔に補って示したほうが、その使い方を理解するのに役立つのではないだろうか。

4. 研究の手順

上記のように、その的確な理解・使用のために具体的な事例が必要ではないかと思われる表現を、中級から中上級レベルを対象とする各種の日本語教材からリストアップしてみる。日本語教師の目で見るとともに、適宜日本語非母語話者の協力も得て、学習者の視点からも検討する。

次に、各種辞書の記述やコーパスにおける用例なども参照しつつ、具体的な使用状況例を考えていく。事例がある程度収集できた時点で、日本語学習者および現場に立つ日本語教師からフィードバックを得て、提示した例の的確性についてさらに検討を加えたい。教育現場においてすぐに参照し応用することが可能な共有リソースとして、事例集を整備することができればと考える。

5. ケーススタディ：「良心的」

ここでは、ケーススタディとして、冒頭で取り上げた「良心的」について考えてみる。

まず、各辞書類では「良心」あるいは「良心的」について以下のような記述がなされている。

- (1) 『使い方の分かる類語例解辞典 新装版』(pp. 229-230)：「良心」

自分の行為の善悪を判断する理性。「良心に恥じない行動」「良心的な店」

- (2) 『広辞苑』(電子辞書版)：「良心的」

良心に忠実であるさま。ずるがしこくなく、物事を誠実にやり通すさま。「-な商売」

- (3) 『新明解国語辞典』(p. 1595)：「良心」

自分の本性の中にひそむ欺瞞や打算的な考えなどを退け、自分が人として本来あるべきだと信じるころに従って行動しようとする気持。「-に恥じる／-にまつところが大きい／-を疑う／-が麻痺する／学的-」

「-的」良心の命じるころに従って行動する様子だ。「-な店」

- (4) 『どなたときどう使う日本語語彙学習辞典』(p. 520)：「良心」(以下原文は総ルビ付き)

やむを得ずうそをついたが、いつまでも良心が{傷んだ／とがめた}。

彼女は良心の痛みに耐えられず、罪を告白した。

連語例：-がある／ない、-が痛む、-の痛み、-に恥じる、-がとがめる、-の呵責

合成語例：-的な(「この店は高級な革製品を良心的な値段で売っている」)

また、国立国語研究所「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(BCCWJ)にて、検索ツール「少納言」を使用し、文字列検索を行うと(検索対象：全てのメディア／ジャンル、対象期間：全期間)「良心的」は204例ヒットする。「～が良心的だ」あるいは「良心的な～」のような形で、それがどのような語句とともに用いられているかを見ると、以下のような例があることがわかる。

- (5) {値段・料金・費用・会計・価格設定・対応・やり方・経営姿勢・仕事・ビジネス・アフターサービス}が良心的だ／良心的な{店・人々・職員・作家・画家・科学者・歯科医・病院・弁護士・不動産屋・書店・メディア}

具体的にどのような状況が「良心的」と述べられているのかを読み取るためには、前後の文脈をかなり広くとらえて見る必要がある(例えば検索ツール「中納言」で前後文脈の語数を500語と指定するなど)。しかし、コーパスで個々の用例をチェックした上での確かな使用状況例を考え出すのは、個々の教師がその都度行うということを考えると、時間と労力を要する作業である。

ここでは、上記コーパスの検索結果も資料として参照しながら、どのような状況を具体的な事例として挙げることができるか、以下の(6)(7)に示すような試案を考えてみた。ポイントは2点ある。まず、「良心的」は、主として商売のあり方、顧客相手のビジネスのやり方について述べるものであり、人の性格や一般的な態度について述べるものではない。また、通常であれば利益至上主義によって行動すると思われるところで、思いのほか顧客の立場に立った、顧客を重視・尊

重するようなやり方をとっている事例に遭遇した際に、「通常想定されるやり方とは異なって」とのニュアンスを込めて述べられるものと思われる。

(6) 町の露天商で購入したアクセサリーの金具がすぐに壊れた。領収書（店がお金を受け取ったしるしに、日にちや金額を書いた紙）は、もちろんもらっていない。しかし、翌日持って行ったら新しいのに交換してくれた。意外と良心的な商売をしているんだと思った。

(7) 顔かたちを美しくしたいと、簡単な整形手術を受ける女性が日本でも増えてきているそうだ。しかし、A医師は、手術をしたいという女性が相談に来ても、簡単な手術1回では、その人の希望する（理想の）顔にはなれないと思われる場合、もっと高いほかの手術もいっしょにやるように勧めるのではなく、相談者に、手術をするかどうかもう一度よく考えるように話しているということだ。お金もうけばかり考える医師が多い中、これは良心的な態度ではないだろうか。

(6)では、「露天商」では普通、製品の保証はないこと、(7)では「整形手術」に対する考え方やそれを取り巻く現代社会の状況などについて、理解を共有しておく必要がある。具体的な状況・場面を示す際には、このように日本社会の慣習・文化や、時代背景の移り変わりなどにも考慮する必要があるため、事例についてはある程度継続的に見直しを行っていく必要があるだろう。

注

- 1) 当該の読解文では、「日本人は商売のしかたを“良心的”に考えてしまう」という文脈で使用されていた。これについて「日本人は“世の中に悪い人はいない、商売をしている人も決して悪いことをしたり考えたりしない”と考える」ということだとして、「例えば“100円のを10,000円などと言って売ることはないだろう、そんなひどい商売をするわけがない”というように考える」という説明を補った。
- 2) ちなみに「良心」は、2009年までの旧日本語能力試験対応の出題基準では、1級語彙となっている。「良心的」は当該リストには含まれていない。
- 3) 外来語も、原語と必ずしも意味が同一でない場合もあるため注意が必要である。

参考文献

- 安藤栄里子他（2014）『どんなときどう使う日本語語彙学習辞典』アルク
- 北原保雄（編）（2010）『明鏡国語辞典 第二版』大修館書店
- 小学館辞典編集部（編）（2003）『使い方の分かる類語例解辞典 新装版』小学館
- 新村出（編）（2008）『広辞苑 第六版』岩波書店（CASIO EX-word 所収版）
- 松村明（編）（2006）『大辞林 第三版』三省堂
- 山田忠雄他（編）（2012）『新明解国語辞典 第七版』三省堂
- 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』国立国語研究所 (http://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/bccwj/)